IEEJ Industry Applications Society News Letter

電気学会産業応用部門（D部門）ニュースレター 2017年5月号 (<http://www2.iee.or.jp/ver2/ias/nl/>)

産業応用部門大会実行委員長あいさつ

Greeting from the 2017 JIASC Steering Committee Chair

平成29年 電気学会 産業応用部門大会 実行委員長

小笠原 悟司（北海道大学）

Satoshi Ogasawara (Hokkaido University)

Steering Committee Chair of the 2017 IEEJ Industry Applications Society Conference

平成29年電気学会産業応用部門大会は、平成29年8月29日(火)～8月31日(木)を開催期間とし、北海道函館市の函館アリーナをメイン会場に、隣接する函館市民会館と花びしホテルの3カ所を会場として開催されます。会場は、湯の川温泉に隣接しており、宿泊施設もたくさんあります。

私の産業応用部門大会との関係は、昭和62年(1987年)に京都国際会議場で開催された第1回大会への参加から始まり、参加できなかったのは恐らく1回か2回でほぼ皆勤であったと記憶しています。また、論文委員会幹事、論文委員会副委員長、論文委員会委員長として運営にも何度か関わり、今回は実行委員会委員長として平成29年(第31回)の大会運営に携われることを光栄に思います。より良い大会を目指して努力いたしますので、参加者の皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

今回の函館大会では、これまでの大会とは異なる二つの取り組みを行っています。まず最初は、開催期間中のイベントスケジュールの変更です。これまでの大会では、1日目は一般セッションとシンポジウムとYPC、2日目午前は一般セッションとシンポジウム、午後は部門表彰式と特別講演でその夜に懇親会、3日目は一般セッションとシンポジウムを実施するというスケジュールとなっていました。新時代の部門大会のあり方を検討してほしいという部門役員会からの要請により、1日目の午前中にプレナリーセッションを実施する新しい形のスケジュールに変更いたします。このプレナリーセッションでは、オープニングセレモニー、招待者講演、特別講演、部門表彰式などを実施いたします。この後にYPCを開催し、その後は一般セッションとシンポジウムを3日目まで実施いたします。部門表彰の一部は、2日目の夜に開催する懇親会の席上で実施予定です。このスケジュール変更により、セッションに集中して部門大会をこれまで以上にお楽しみいただけたと考えています。

二つ目は、電気学会北海道支部との連携です。今年の部門大会の会場は、大学キャンパスではないことに加えて、

実行委員会の幹事団の所在地とは異なる函館市での開催となっています。札幌・函館間は特急列車で3時間半の距離にあり、東京から新幹線で4時間余りと時間距離はほとんど変わりません。この函館大会を開催するにあたっては、北海道支部にご協力をいただき、D部門の会員ではありませんが函館地区のはこだて未来大学と函館工業高等専門学校多くの先生方に実行委員会にご参加いただいております。このような支部との連携により、より魅力的な場所での開催を可能にする一つのモデルケースになることを期待しています。

特別講演では、前橋大会の自動車の自動運転の特別講演が若い参加者にも好評であったことから、これからの発展が期待できる航空機への電気応用の拡大に関してIHI(株)航空宇宙事業本部技術開発センターエンジン技術部将来技術プロジェクト担当部長博士(工学) 森岡紀子様からご講演いただく予定です。「子供理科体験教室」は8月11日(金)に函館駅前に位置する「はこだてみらい館」を会場に実施し、超高速永久コマと電気二重層キャパシタを用いた電気自動車を、子供たちに実際に作って動かしてもらう予定です。また、9月1日(金)には函館周辺のテクニカルツアーも計画しています。

平成29年産業応用部門大会への皆様のご参加を心よりお待ちしております。

魅惑の函館の夜景が皆さんを待っています